



1 ヘッドライト上部のゆがみを修正するため、同型車のヘッドライト（ランプなしの確認用）を当ててダメージの状態を確認する。



2 ゆがみは外に向かって2mmほど広がっていた。ならしハンマーで内側に数回叩く。その後、再びヘッドライトを当ててゆがみが取れたか確認し、完了。



主な使用材料



3 フロントドア上部との隣接部分の深さ5mmほどの凹み傷を修正する。ここでは、ボール紙で作った同型車の型紙をパネルに対して垂直に当て、ダメージの程度を確認。



4 まずは、プライヤーを使いパネル端の合わせ目の凹みを粗出しする。



5 この部分はし字状で強度があることから、凹みを修正する際に同社ではガス溶接器を使用して、短時間かつ局所的に加熱する。



6 修正部分がきつね色になるまで加熱。



7 パネルの裏に刃が半円状になったタガネをあて、表面をならしハンマーで叩く。凹みが正常な高さまで戻れば叩くのをやめる。



8 グライNDERで塗膜を剥がす。



9 タイヤハウス真上のプレスラインの凹みを修正する。ここでは型紙がないため、引き出す際の高さを目分量で決める。



10 パネルを裏返し損傷部の深い部分に木片を当て、その上からならしハンマーで叩く。



11 次にタイヤハウスのカーブと平行に走るラインの輪郭に木片を当てならしハンマーで叩く。ラインをつぶさないように注意する。



12 刃幅の狭いタガネを使用しラインを整える。



13 パネルの表側を、ヤスリハンマーで平坦にならしていく。



14 グライNDERで、さらにパネル表面の塗膜を剥がす。



15 吸塵式のダブルアクションサンダーを使用し、ペーパーP80→120の順でフェザーエッジを作る。



16 プラサフ塗布。マスクは時間がかかるため、三角形の板を使用し周囲をカバーしている。



17 これで商品化が終了。同社ではプラサフまで塗布した状態で販売している。